

ひと

「ことのは語り」は母親の子育てを応援する

きむら まさこ
木村 方子 さん(59)

「いただきます、言ってますか。命生きながらえさせていただきます」という気持ちで」

自治体やPTAから声がかかり、月の半分は食や子育てがテーマの講演をして歩く。鈴の音のようにりんりん歯切れのいい声だ。名刺の肩書は「ことのは語り」。

東京生まれ。保証人になって土地

と家をなくした父は、社員をやめ、牛乳店を営んだ。20歳で結婚し、ふたりの息子に恵まれた。長男は人気タレントの拓哉さん、次男の俊作さんはクラブチームのアメフト選手として活躍した。

一方、自らは「いいお母さんと言われたくて理想の枠を作り、自分をとじこめた。私はダメねと自己否定ばかり」。睡眠薬や安定剤が手放せなくなった。「良妻賢母やめた。息子たちは息子たち」。52歳でトネルを抜けるまで、16年かかった。

家庭では台所が親子の会話の場だった。息子たちには3歳で包丁を持たせ、リンゴの切り方遊びをした。「赤ちゃんのときのにおい、ほっぺの柔らかさ。母親には宝物がある」。子育ては楽しいよ、といまは言えるようになった。

12年前、脱サラした夫とイタリア料理店を開いた。医食同源の考えをもとに食材を選び抜く。川崎市内にある店は20日で閉じる。今後、講演や詩の朗読でもっとお母さんたちを勇気づけたい。「寝る前、鏡に向かって、きょうもがんばったねって自分をほめてあげて」

文・河合真美江 写真・安富良弘